

# Back Number

本論文は

## 世界経済評論 2023 年 5/6 月号

(2023 年 5 月発行)

掲載の記事です

世界経済を読み解く国際戦略の羅針盤  
世界経済評論 5・6月号  
World Economic Review



世界経済評論

# 定期購読のご案内

年間購読料

1,320円×6冊=7,920円

# 6,600円

税込

17%

送料無料

OFF

富士山マガジンサービス限定特典

※通巻682号以降

定期購読  
期間中

# デジタル版バックナンバー読み放題!!



世界経済評論 定期購読



☎0120-223-223

[24時間・年中無休]

お支払い方法

Webでお申込みの場合はクレジットカード・銀行振込・コンビニ払いからお選びいただけます。  
お電話でお申込みの場合は銀行振込・コンビニ払いのみとなります。

Fujisan.co.jp  
雑誌のオンライン書店

## グローバル都市革命 ：コンパクトシティ 田園都市 第3の都市

前城西国際大学院特任教授 久米 五郎太



[著者] 瀬藤澄彦 (せとう すみひこ)

国際貿易投資研究所 客員研究員

[発行] 文眞堂, 2022年11月

[判型] A5判, 330ページ

[定価] 本体 3,500円+税

本書はパリなどフランスを主に、欧米の例を引きつなされた都市論である。

著者の瀬藤澄彦氏はパリやリヨンに長く住み、ジェトロの他にフランス経済省にも勤務し、仏・日の大学で教鞭をとったエコノミストである。EUやフランスを対象としたマクロ経済や貿易、直接投資、都市・地域開発について書籍を出し、論考を発表している。日仏経済交流会会長も務め、フランスに関わるビジネス・パーソンたちの関心にも通じている。

副題は「コンパクトシティ・田園都市・第3の都市」。初めの2章で欧米のメガシティの発展と首都の富裕化（ジェントロゼーション）の現状を描き、続いてコンパクトシティとスプ

ロール化（3章）、多国籍企業と都市メトロポール（4章）を扱い、最後にコロナ時代の都市再構築を論じている（5章）。

都市論は経済学、社会学、都市工学などのデシプリンにわたるが、著者の注目の一つは新経済地理論の視点や企業の価値連鎖にある。つまり、企業のグローバルな活動は地理の近接や人の接触により促され、国際活動が盛んな大（多国籍）企業は首都地域において本社機能を充実させる。ニューヨーク・ボストンやロンドンのように情報・金融・人材・研究開発の諸機能が集積する「創造都市」で企業活動が活発になる。パリ市内でも同様な現象が生じ、近年は富裕層が増え、不動産価格の高騰を主因に労働者階級、さらに中間層が郊外や田園に移り住む。公共交通手段に頼れず自動車を利用する人々は、ガソリン税引き上げに強く抵抗した。

コンパクトシティは主にスプロール化による郊外・田園の自然環境悪化に対処すべく、欧米で1990年代から促進され、実績が増えた。しかし、昨今は中心部の高層化に伴う不動産価格上昇が問題視されている。今やポストコロナの時代になり、対人距離を広くとり、リモートでも働ける、都市と田園の間に属する第3の公共空間たる場所（都市）が必要と筆者は説く。ここは議論の展開をゆっくり追いたい。

都市の様相は実に様々である。グローバルな都市と衛星都市、地方都市における衰退する中心部と活気のある周辺部、都市で働きつつ住む田園、デジタル田園都市構想もある。著者が多くの文献を引用し、示すコンセプトや幅広い視点からの見解はこの本の魅力である。我々が住み、働く都市のあり方を考え、旅行で訪れる都市を見る際に大いに参考となる。

(くめ ごろうた)